

凛として、  
美しいわけ。

「水晶峠産水晶晶族」  
(山梨大学所蔵)



## 山梨ジュエリー、 その長き歴史の歩み

ジュエリー出荷額日本一を誇る山梨はジュエリーを生産するための工程全てを賄える産地です。

山梨のジュエリー産業の歴史や展望について山梨ジュエリーミュージアム学芸員の中村安里さんは語ります。

山梨のジュエリー産業は、県北部の金峰山一帯を中心とする地域から水晶が産出されたことから始まりました。産業としての始まりは江戸時代末期にさかのぼるとされ、江戸時代の文献にも甲州は水晶の産地と記載されています。

天保年間に京都の玉造り職人が甲州へ水晶の買い付けに通う際、昇仙峡の奥地にある金桜神社の神職たちに玉磨きの技術を教えたことと伝えられています。その研磨の技術が神職たちから民間に伝わり、今日の山梨のジュエリー産業を支える職人たちに引き継がれています。

明治中期頃、水晶研磨の技術と「飾り」と呼ばれる貴金属加工の技術が結び付き、装身具に特化した産業が発展していきました。大正時代になるとカッティングの技術も飛躍的に進歩し、

さらに電力が導入されると、設備の機械化が進み大量生産ができるようになりました。

昭和に入り戦争が始まると、ジュエリーはぜいたく品として生産が止められ、水晶発振子などの軍事産業へ組み込まれていきました。甲府空襲により甚大な被害を受けジュエリー産業の復興は危ぶまれましたが、戦後進駐軍の兵士たちの土産品としての需要が高まり、山梨の水晶研磨産業は息を吹き返したのです。その後、東京五輪や高度経済成長を追い風に、高級宝飾品も動き始めるようになり、産業はさらに発展していったのです。

最近はこの業界に若い人の活躍が目立ってきたと感じます。産地ブランド「Kooofu」や、「born jewelry」といった若手中心の新ブランドもあります。また、国内ジュエリー業界において最も権威あるコンテスト「日本ジュエリーデザインアワード2016」で、県内企業の作品が大賞を受賞するなど、山梨のジュエリー産業の未来には期待が高まっています。



山梨ジュエリーミュージアム

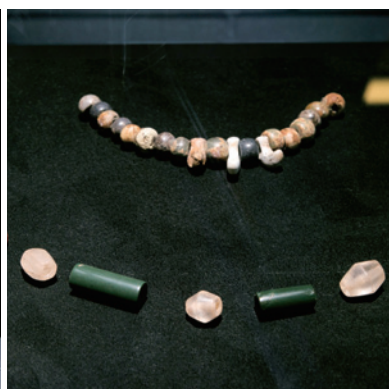
学芸員 中村 安里さん



「着色黄水晶 帯留（大正初期）」  
（山梨大学所蔵）

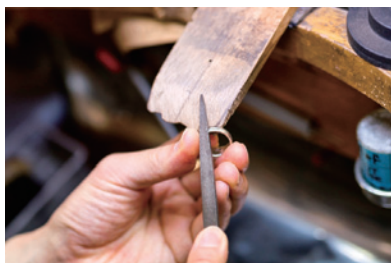


「第十号傾斜式双晶（産出地：山梨県増富村小尾）」  
（山梨大学所蔵）



「上」石製勾玉、管玉  
「下」水晶製切り子玉 碧玉製管玉  
（山梨県立考古博物館所蔵）





## 猪股 進一さん

商品研究開発部 主任

株式会社 石友

甲府市川田町アリア106 / TEL. 055-220-1711

日本一の技を持つ職人たち。  
その想いとは。

「25年前にこの業界に入った当時は、手作業と機械化の共存がすでにある程度進んでいました」と、株式会社石友の商品研究開発部の猪股進一さんは語ります。

「初めは何も分からず、まずは、やすりがけを先輩から教えてもらい、徐々に技術と知識を身に付けていきました。仕事を覚えていくに従い、手作りに興味を持つようになり、この伝統の技を絶やすことなく残していきたいと考えようになりました。」

技術を受け継ぐこと、それは理屈ではないんです。頭の中では分かっているけど、実践してみると思うように仕上がらない。失敗して経験を積み、失敗を次の肥やしに…。その積み重ねです。そこで身に付いていくのが指先の感覚です。このくらいの力と言っても、数値にすることはできません。とにかく感覚なんです。職人として成長するためには、知識を深め、経験を積んでいくしかないんです。

ジュエリーは職人の技量により、仕上がりに大きな差が生じます。社内一貫生産を実践する当社の職人たちは、最新鋭の機械と昔ながらの道具を駆使しながら、原型、金型、鋳造、磨ぎに至るまでの全てをこなす力量を常に養っています」

研さんを積み、新たな技術を身に付け、時代のニーズに応えていく職人たち。山梨の宝飾産業を支える彼らは、いつも前を向いて進んでいます。



## 作品名

## 「Super Nova(スーパーノヴァ)」

デザイナー／瀬川 薫

製作者／株式会社 白金工房

応募者／アンプローズアンドカンパニー株式会社

星が一生の最後に爆発して輝く現象「超新星」を意味するタイトルで、「スーパーノヴァ」の最後の煌めきをトルマリンとブラックダイヤモンドで、再生する壮大なエネルギーをダイヤモンドとゴールドで表現した作品。

(右より)アームレット・ネックレス・イヤークラセット/Pt950・Pt900・K18YG・K18PG・K18WG/ダイヤモンド/トルマリン・ブラックダイヤモンド



県内企業、「日本ジュエリーデザイナーアワード2016」で日本ジュエリー大賞・内閣総理大臣賞を勝ち得る。



## 山梨ジュエリーミュージアム

山梨の宝飾品加工生産の歴史、卓越した技術、美しい宝飾品の数々を紹介し、「山梨ジュエリー」の魅力を発信

住 所／甲府市丸の内1-6-1  
山梨県防災新館1階やまなしプラザ内  
T E L／055-223-1570  
開館時間／10:00～17:30  
(入館は閉館の30分前まで)  
休 館 日／火曜日(祝日の場合は、その翌日)  
年末年始  
入 館 料／無料

山梨ジュエリーミュージアム 検索

